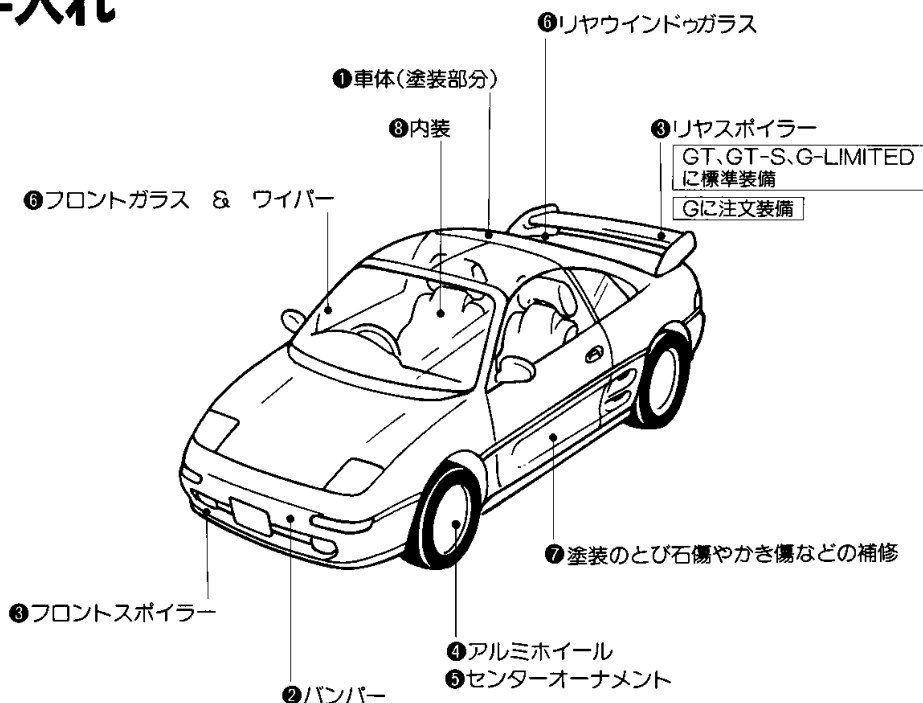


車の手入れ.....119
 経済運転のコツ.....125
 寒冷地での取り扱い.....126
 タイヤチェーン.....129

車の手入れ



車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン

車を美しく保つには

車をいつまでも美しく保つためには、日頃の手入れが必要です。

1. 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を付着させないでください。塗装を損傷します。万一、付着した場合はただちにふき取る、洗車するなどしてください。
2. 次のような場合は必ず洗車してください。
 - 海岸地帯を走行したとき。
 - 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき。
 - コールタール、ばい煙、油煙、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき。
 - ほこり、泥などで著しくよごれたとき。

3. 次のような場所に長時間駐車しますと、塗装の劣化や、車体、部品の腐食などを早める原因となります。十分注意してください。

- 海岸
- ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉などの降下の多い場所。
- 化学物質を排出する工場周辺。
- 樹液、鳥のふん、虫の死がいなどの付着の多い場所。



知識

コンパウンド(みがき粉)入りワックスは、よごれの落ちは良くなりますが、塗装面の光沢が失われる原因になりますのでホワイト車以外やメタリックマイカ装着車にはお使いにならないでください。

このページのイラストは、トヨタ自動車株式会社の登録商標です。また、このページのイラストは、トヨタ自動車株式会社の登録商標です。

①車体(塗装部分)の手入れ

車体のほこりはやわらかい布か毛ばたきで取ってください。

▶洗車方法

1. 車体に十分水をかけながら、スポンジかセーム皮(鹿のなめし皮)でよごれを洗い落とします。
2. 次に、車体の下回り、足回りを洗います。
3. よごれのひどいときは、ボデークリーナーを使用します。



下回り、足回りを洗うときは、手にけがをしないように注意してください。



アドバイス

1. エンジンルーム内の電気部品に水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障などの原因になるおそれがあります。
2. 洗車するときは、硬いブラシやたわしなどを使用しないでください。塗装などに傷がつきます。

4. 塗装面にはん点が残らないように十分水をふき取ります。

▶自動洗車機を使用するときは

- ミラー、アンテナは格納し、前側から洗車してください。
- ときによりブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。
- リヤスポイラー付き車は洗車機によってはひっかかり、洗車できない場合や、スポイラーが傷ついたり破損するおそれがあります。

▶高圧洗車機を使用するときは

ノズルの先端をドアガラスなどに近づけすぎないでください。近づけすぎると水圧が高いため、室内に水はいるおそれがあります。

▶ワックスについて

ワックスの中にコンパウンド(みがき粉)がはいっていないものをご使用ください。

1. 1カ月に1度、または水のはじきが悪くなったときに行ってください。
2. 洗車後、車体の温度が体温以下のときに行ってください。しみの原因になります。
3. ワックスは次のトヨタ純正品をおすすめします。

〈固形タイプ〉

- A 1 ネオハードシャインコート
- A 1 ハードトラッド

〈液体タイプ〉

- A 1 コートロングライフ
- A 1 クリーナーワックス

②バンパーの手入れ

1. 車体と同じく、洗車したあとトヨタ純正ワックスでワックスがけをします。
2. たわしなどの硬い物を使用して洗うと傷がつきますので、セーム皮、スポンジなどをご使用ください。



アドバイス

エンジンオイル、グリースなどの油分が付着すると、変色、しみなどの原因となります。十分注意してください。

③ スポイラーの手入れ

たわしなどの硬い物を使用して洗うと傷がつきますので、セーム皮、スポンジなどをご使用ください。



アドバイス

1. エンジンオイル、グリースなどの油分が付着すると、変色、しみなどの原因となります。十分注意してください。
2. 自動洗車機を使用する場合は、必ず前側から洗車してください。洗車機によっては、リヤスポイラーがひっかかり洗車できないことがあります。十分注意してください。

＜フロントスポイラー＞

車体と同じく、洗車したあとバンパーワックスでワックスがけをします。



アドバイス

フロントスポイラーに塗装用ワックスが付着すると目地にはいり、白くなる場合があります。すみやかにふきとり、専用ワックスでワックスがけしてください。

＜リヤスポイラー＞

車体と同じく、洗車したあとトヨタ純正ワックスでワックスがけをします。



アドバイス

自動洗車機を使用すると機種によってはリヤスポイラーがひっかかり、洗車できない場合や、スポイラーが傷ついたり破損するおそれがあります。

④ アルミホイールの手入れ

1. ホイールを洗うときは、中性洗剤を使用してください。よごれがひどく落ちにくいときは、トヨタ純正アルミホイールクリーナーをお使いください。
2. ワイヤブラシなど硬い物を使用して洗うと、ホイール面に傷がつきます。セーム皮、スポンジなどをご使用ください。
3. 最後は十分水洗いをし、車体と同じワックスでワックスがけをしてください。

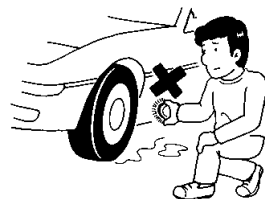


アドバイス

1. 泥の付着、海水、凍結防止剤などにより汚染されると、腐食するおそれがありますので、付着させたままにせず、なるべく早く洗い落としてください。
2. コンパウンド(みがき粉)入りワックスは、よごれがひどく落ちにくいときにだけ限定してご使用ください。
3. 自動洗車機を使用すると、ときによりブラシの傷がついたり塗装膜の摩耗を早めることがあります。

⑤ センターオーナメントの手入れ

セーム皮、スポンジなどで十分水をかけながら洗ってください。たわしや自動洗車機の硬いブラシを使用すると塗装部に傷がつきます。



車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン

⑥窓ガラスについて

ワイパーのふきが悪くなった場合は、次のトヨタ純正ガラスクリーナーで清掃してください。

- ガラスクリーナーコンパウンド
- ガラスクリーナーリキッド

なお、ワイパーゴムが古くなっている場合も同様にふきが悪くなりますので、最寄りのトヨタ販売店で交換してください。



アドバイス

リヤウインドウガラスの内側を清掃するときは、ガラスクリーナーなどを使用しないでください。熱線が断線し作動しなくなるおそれがあります。清掃は、熱線にそって、水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

⑦塗装のとび石傷やかき傷などの補修

これらの傷は腐食の原因となります。見つけたら早めにトヨタ純正タッチアップペイントまたはタッチアップテープで補修してください。

⑧内装の手入れ



警告

シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。

また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が落ち、衝突などのとき十分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。



注意

室内の清掃などで車内に水をかけないでください。オーディオ類やフロアカーペット下の電気部品などに水がかかると火災や故障の原因になるおそれがあります。



アドバイス

- 内装の手入れをするときは、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やしみの原因になります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますのでよく確認のうえ使用してください。
- 液体芳香剤をこぼさないように注意してください。含まれる成分によっては変色やしみ、塗装はがれの原因になるおそれがあります。

1. カークリーナーなどでほりを取り除きます。
2. 水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふきとります。

(本革 & エクセーヌシートの手入れ方法は次ページをご覧ください。)

本革 & エクセーヌシートの手入れ

本革 & エクセーヌシートは手入れ方法を誤ると、変色、しみなどが生じるおそれがあります。次の事項を守って正しく手入れをしてください。

〈本革部分〉

本車両の本革シートには、厳選された天然素材を使用しています。

外観品質を長く保つために、年に2回程度は定期的にお手入れすることをおすすめします。



天然素材のため、シボ（皮革表面肌の凹凸）の不均一や、牛皮革本来のキズがわかる場合があります。

- シート表面についた砂、ほこりなどは、皮革表面の保護膜を傷つけ、早期摩耗の原因となります。掃除機などで吸い取りましょう。
- 皮革を炎天下に長時間さらすと色あせや硬化の原因となります。長時間炎天下に車を放置するときはボデーに覆いをかけたり、サンシェード（日除け）を使用するなどして皮革を直射日光から守りましょう。
- シート表面についた汚れは次の方法で取り除きましょう。
 - ①ウール用の中性洗剤を約5%の水溶液まで薄めて、ガーゼなどのやわらかい布に含ませて、汚れを軽くふきとります。
 - ②真水をひたした布を固くしぼり、シート表面に残った洗剤をふき取ります。
 - ③乾いたやわらかい布でシート表面の水分をふき取り、風通しのよい日蔭で乾燥させます。



シート表面に過剰な水分が残ると、皮革の風合い低下（硬化、収縮）の原因となります。

- 本革シートのお手入れ用品として『高級本革シートケアセット』のご使用もおすすめします。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。



1. 表面をナイロンブラシ、合成繊維類で強くこすったりすると傷つくおそれがあります。
2. 本革部分のよごれは、カビなどの発生原因となります。油よごれなどには十分注意し、常に清潔に保つよう心がけてください。
3. 直射日光に長時間さらすと、表面が硬くなり縮むことがあります。駐車する場合は、できるだけ日よけに心がけてください。
4. 夏期など室内が高温になる状態のときに、シート上にビニール類をおいておきますと、ビニールが変質してシートに付着するおそれがあります。

〈エクセーヌ部分〉

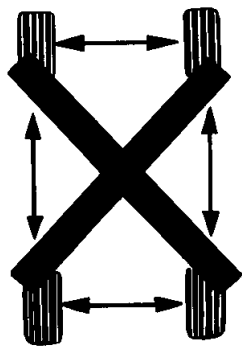
1. 家庭用中性洗剤をガーゼなどやわらかい布に含ませ軽くふき取ってください。
2. 水にひたした布で洗剤をきれいにふき取ってください。



1. 表面を硬いブラシなどでこすると傷つくおそれがあります。
2. エクセーヌの表面はアルコールに弱いいため、アルコールを含んだ洗浄剤は絶対に使用しないでください。また有機溶剤（シンナー等）は使用しないでください。

■タイヤローテーション(タイヤ位置交換)

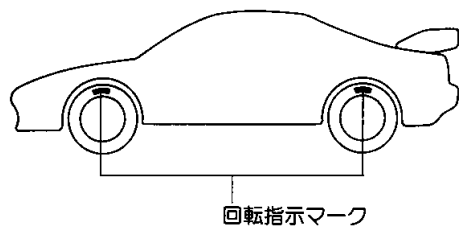
前後輪でタイヤサイズが異なります。また回転方向が指定されているため、左右のタイヤは異なります。したがって4本とも専用となっており、タイヤ位置交換はできません。



- 積雪時に後輪がパンクしたときは、一時的に同じ側の前輪を使用してください。

■タイヤ回転指示マーク

タイヤの性能上、回転方向が指定されています。タイヤ側面の回転指示マークが下図のように必ず車両前方へ向くように取りつけてください。



メーカー名	回転指示マーク
ブリヂストン	
ヨコハマ	

■タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧はときどき点検してください。空気圧が不足している状態で走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

空気圧は運転席ドアを開けたボデー側に貼られている「タイヤ空気圧」の表で正しい空気圧を確認の上、調整してください。

空気圧が不足している場合や調整ができないときは、ひかえめな速度で走行してください。

■エンジンオイルについて

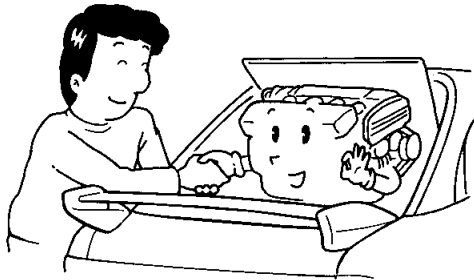
エンジンオイルの量をときどき点検してください。なお、高速走行(80km/h以上での走行)を行う前には、必ず点検してください。(点検方法については「メンテナンスノート」を参照してください。



エンジンオイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをする働きがあります。通常の運転をしていてもピストンおよび吸・排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるため、オイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。

経済運転のコツ

エンジンをいたわる気持ちが、
長持ちの秘訣



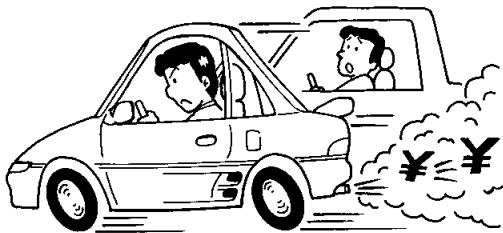
(新車時はとくに)ひかえめな運転をしてください。

暖機運転は、長すぎると不経済

水温計の指針が動き出すまでになればOKです。



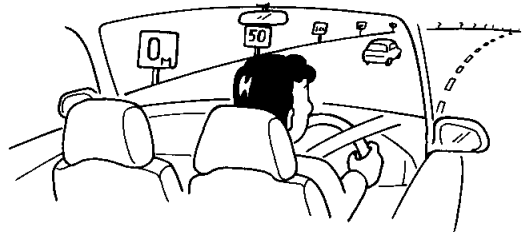
不必要な高速運転は燃料のムダ使い



100km/h走行時の燃費は、40km/h走行時の約1.5~1.7倍よけいに多くかかります。

高速道路は80km/h程度で走るのが経済走行といえます。

車間距離はゆったりとって、
安全プラス経済運転



急発進、急ブレーキは危険をとめない
不経済



クラッチの適正で確実な操作は、
車を長持ちさせる秘訣

1. ギヤをいれるときは、クラッチペダルを十分踏み込んでから行ってください。
中途半端な踏み方ですと、クラッチはもちろんトランスミッションのギヤなどもいためることになります。
2. 走行中は、クラッチペダルに足をのせないようにしてください。
3. 発進時は、ロー(1速)ギヤを使用してください。
セカンド(2速)ギヤ発進など半クラッチの多用はクラッチの摩耗を早めます。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン

寒冷地での取り扱い

この項目での寒冷地とは、北海道全域および東北、北陸の積雪地帯および、その他の地域を含めた山岳地、スキー場などの局地的な厳寒地区、多雪地区を対象としておりますが、その他の地域においても、冬期の取り扱いの参考としてください。

安全なウインタードライブをするために

1. タイヤチェーンの準備

2. 冬用タイヤの装着

冬用タイヤに取り替えるときは、4輪とも指定サイズの同一銘柄のものに交換します。

3. 冷却水の濃度を点検してください。(トヨタ純正ロングライフクーラントの濃度)

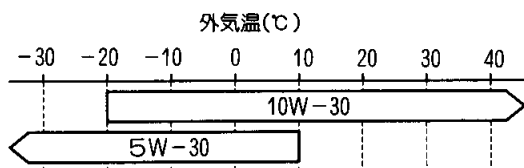
使用地域	希釈割合	凍結保証温度
温暖地	30%	-12℃
寒冷地	50%	-35℃

4. ウォッシャー液の濃度について

ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。

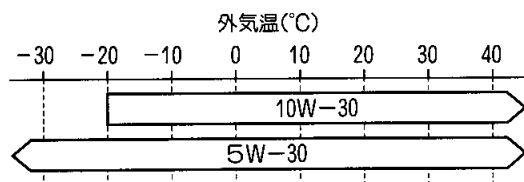
5. エンジンオイルの粘度は、外気温によって下表を参考にしていってください。

3S-GTE (SAE粘度)



●5W-30は寒冷時でのご使用をおすすめします。

3S-GE (SAE粘度)



6. 寒冷地用ワイパーブレードについて

降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおっております。



知識

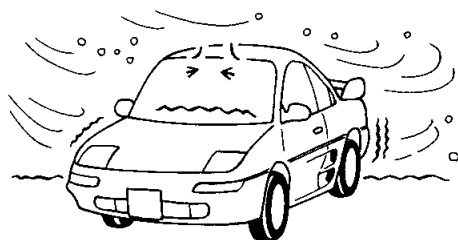
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。
- 寒冷地用ワイパーブレードを必要としない降雪期以外は、通常のワイパーブレードを使用してください。

走行前の点検

寒冷時には、次の項目を走行前に点検してください。

1. 車の下をのぞいて、足回りに付着した氷塊を部品に傷をつけないように注意して取り除いてください。
2. エンジン始動時に、アクセルペダルの作動が引滑かどうか確認してください。
3. フロントウィンドウの氷雪を除去する際には、ワイパーゴムがガラスに凍結していないか確認してください。

エンジンの冷えすぎを防ぐには

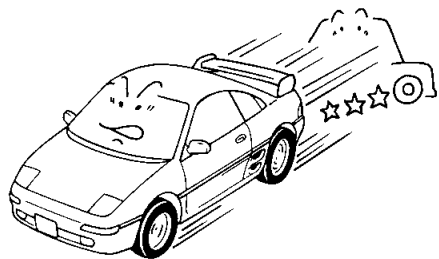


1. 気温に応じてラジエーター前面にカバーをつけると、エンジンを適温に保つのに効果があります。
2. 駐車するときは、車両前方を風下にしてください。

ドアの凍結時の処置

ドアが凍結した場合は、無理に開けようとするとドア回りのゴムがはがれたり、き裂するおそれがありますので、湯をかけて氷を溶かしてください。なお、あとで水分を十分ふき取ってください。

ターボ車はエンジン始動直後に、エンジンの急激な空ふかし、または急加速をしないでください。



ペダル操作時のすべり防止のため、靴に付着した雪を乗車時、よく落としてください。



凍結するおそれのある場合の駐車は…

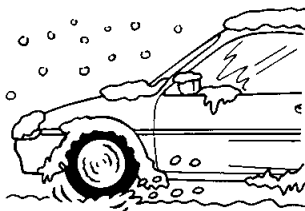
寒冷時はパーキング（駐車）ブレーキをかけておくとブレーキ装置が凍結するおそれがありますので、パーキング（駐車）ブレーキはかけないでください。

1. チェンジレバーの位置をマニュアル（ギヤ式）トランスミッション車はロー（1速）またはリバース（後退）、オートマチックトランスミッション車はPにします。
2. 車が絶対に動くことのないように輪止めをしてください。



雪道走行時、フェンダー裏側に付着した雪が氷結し次第にたい積して、ハンドルのきれが悪くなる場合があります。

ときどき異常のないことを確認してください。



寒冷地では雪道走行時あるいは駐車時にブレーキ装置に着氷し、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。

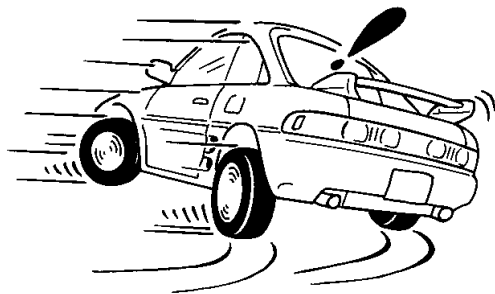
走行中は前後の車や道路状況に注意し、ときどき軽くブレーキペダルを踏んでブレーキの効き具合を確認してください。

また、駐車後走行を開始する場合も、できるだけ早くブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪い場合は低速で走行しながら、効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏んでください。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン

ぬれた路面、氷雪路面、凍結路面では スリップに注意



1. ひかえめな速度で走り、氷雪路面、凍結路面では、冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着してください。地域によっては、条例などで使用が義務づけられていますので、冬がくる前に準備しておいてください。
2. GT、GT-Sに装着されているタイヤは、ハイグリップタイヤです。ハイグリップタイヤは、一般走行時でのグリップ性能を重視して作られています。積雪路、凍結路では、一般のタイヤに比べてグリップ性能がより低下します。積雪路、凍結路では、必ず冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着し、速度を控えめに運転してください。なお、タイヤチェーンを後輪に装着しても前輪のグリップ性能は低いため、より慎重に運転してください。

タイヤチェーン

- タイヤチェーンは後輪に取り付けます。
- 応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
- 作業をするとき車体端部などでけがをしないように注意してください。



注意

タイヤチェーンは必ずMR2専用のトヨタ純正品を使用してください。トヨタ純正品以外のチェーンを使用すると車体側に当たり走行に悪影響をおよぼす場合があります。

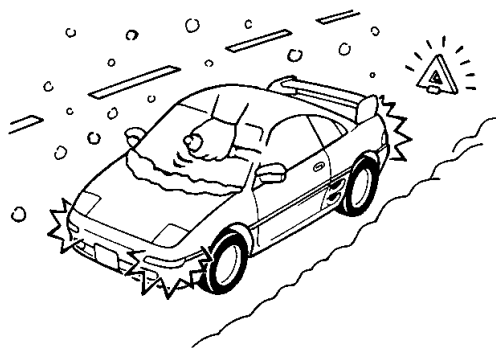


アドバイス

アルミホイールにタイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷がつくことがあります。

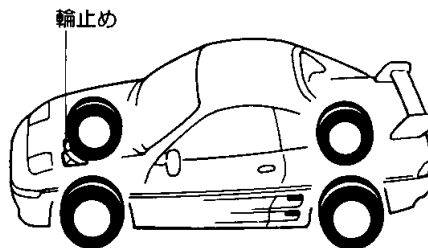
■取り付け方

1. 交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に車を止めます。
2. 非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板(または停止表示灯)を使用します。
3. パーキング(駐車)ブレーキをしっかりかけます。



4. マニュアル車は、エンジンを止め、チェンジレバーをRの位置にします。オートマチック車は、チェンジレバーをPの位置にし、エンジンを止めます。
5. 工具、ジャッキを取り出します。⇨103ページの「工具とジャッキ」を参照してください。

6. 左側チェーン取り付け時には右側前輪、右側チェーン取り付け時には左側前輪の前側に、輪止め(搭載工具に含まれています)をします。



7. 後輪をジャッキアップします。
⇨104ページの「ジャッキのかけ方」を参照してください。
8. タイヤチェーンを用意し、タイヤチェーンを取り付けます。⇨取り付け方は、タイヤチェーンに付属の取扱説明書をご覧ください。
9. 車体をおろし、輪止めをはずします。
10. 2~3分走行後、チェーンのゆるみ、はずれなどがないことを確認してください。



注意

タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗り越えたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。



アドバイス

タイヤチェーン(スチールチェーン)を装着しているときは、30km/h以上で走行しないでください。タイヤチェーンにかかる負荷が大きくなり、チェーンが切れやすくなります。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン